2023 年 10 月 5 日

立教大学国際学術研究交流制度
2023 年度「派遣研究員」報告書

１．派遣概要

所属･職	文学部・教授
氏名	深津　行徳
派遣機関名	Department of Archaeology, Faculty of Letters, Akdeniz University 所在国：トルコ
研究テーマ	古代末期～中世ビザンツ期（3 世紀～15 世紀）の城壁の建設・修築年代決定を可能とする科学的方法の開発－トルコ共和国アンタルヤ県トロス遺跡を対象として－
派遣期間	2023 年 8 月 1 日～2023 年 8 月 31 日（31 日間）
研究経費	738,860 円

２．派遣期間中の活動

離日日および帰国日を含め、派遣期間中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。

活動内容記入例）〇〇に関する調査、〇〇氏と研究討議、共同研究、講演、視察等

年月日	活動内容
2023.7.31	離日
2023.8.1～18	Afyonkarahisar 考古博物館館長 Mevlut YUMEZ 氏 と研究討議 Pessinus 遺跡城壁調査 Amorium 聖堂遺跡壁面調査 Izuik 北城壁・西城壁調査
2023.8.19～25	Akdeniz 大学 Taner KORKUT 教授、Hatay Mustafa Kemal 大学 Çilem UYGUN 副教授と研究討議 Tlos 聖堂遺跡内壁面調査 Pamukkale 都市遺跡訪問 Hierapolis　都市遺跡訪問 Seleukeia Sidera 発掘現場訪問
2023.8.26～31	Istanbul 近郊城壁調査
2023.9.1	帰国（自費による滞在延長）

３．研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果、今後の研究の展望等、本学と派遣機関との研究交流にかかる成果を記入してください。

（研究・交流の内容および成果）

Tlos 聖堂遺跡内壁面調査によって、同遺跡の Ortho image と３D image 作成のためのデータを収集することができた。

城壁建築は、教会建築や宮殿建築などと異なり意匠上の特徴を容易に認めがたく、年代決定が困難とされてきた。西洋古代末期には、整然と直方体に切られた古代の転用材が多く用いられ、ビザンツ時代以降は礫石中心で緩衝材としての煉瓦材が用いられるという一般的傾向が指摘されているだけである。今回の調査は、より客観的（科学的）に城壁建築の作成年代を推定するために、城壁外壁上の建設様式に変化が見られるラインを基準にグリッドに区切って建材別セグメントの割合を算出するためのデータを収集することであった。今後、複数の城壁間でそれらのデータを比較し、建築時、修築時、再修築時等、建設・修築の各次に一定の傾向が観察されれば、厳密な年代特定は困難としても、建材の積み方による年代の比定が大まかに可能になることが期待されよう。

今回、Tlos 遺跡以外にも多くの城壁のデータを収集することができた。Tlos 遺跡発掘調査を管轄する Akdeniz 大学 Taner KORKUT 教授、Hatay Mustafa Kemal 大学 Çilem UYGUN 副教授とは、今回の調査データを共有して分析することを協議した。

（今後の研究の展望・本学と派遣機関との研究交流）

Tlos 遺跡では劇場の復元作業が行われており、立教大学の学生の発掘・修復作業への参加について協議し、前向きな返答を得た。規模を考慮すると、Ortho image と３D image 作成のためにはドローンの投入が必須と考えるが、それの使用規制強化が進んでおり、慎重に対処する必要があろう。

Afyonkarahisar 考古博物館館長 Mevlut YUMEZ 氏 とは、Afyonkarahisar 周辺の遺跡の調査許可（表面調査）を得ることができた。衛星写真等で事前に検討していた地点の調査をおこない、具体的な発掘調査地点の選定に進みつつある。